

英語で繋がる世界 ～ Large Grammar の応用と国際交流という実践の場～

石田 順^{1*}・竹川由紀子^{1**}・足立和美²

¹鳥取大学附属中学校 英語科

²鳥取大学地域学部

*E-mail: ishida_j@fuzoku.tottori-u.ac.jp

**E-mail: takekawa_yk@fuzoku.tottori-u.ac.jp

Jun ISHIDA¹, Yukiko TAKEKAWA¹, and Kazumi ADACHI² (¹Tottori University Junior High School, ²Faculty of Regional Sciences, Tottori University) : **The world connected in English. Application of “Large Grammar” and an international exchange program as a field for practice**

要旨 — これまでの中学校英語教育ではインプット活動に重きが置かれ、効果的なアウトプット活動の実践を検証する機会が少なかった。本研究では著者の一人、足立の提唱する Large Grammar を用いたアウトプット活動トレーニングと英国ニューステッドウッドスクールとの交流を通じたアウトプット活動の実践について検証するとともに、生徒のコミュニケーション能力の向上について、特に「書くこと」と「話すこと」についての効果的なアウトプット活動について考察する。

キーワード — Large Grammar, チャンク, 国際交流, 英語教育, やりくり, やり取り

Abstract — In the past, English teaching in junior high schools emphasized input and there were few opportunities to implement output activities. In this research, we examined a practice of output activities, first, through Large Grammar activity training advocated by one of us, Kazumi Adachi, and second, through an exchange program between Newstead Wood School in the UK and Tottori University Junior High School. We also examined improvement of students' communication skills including writing and speaking through these output activities.

Key words — Large Grammar, chunk, international exchange program, English education, way of communication, interaction

1. はじめに

1.1. 英語教育における現状と課題

グローバル化が急速に進展する中で、私たちの社会においても外国語によるコミュニケーションの必要性やその能力向上が求められる時代となった。そういった中で英語教育にかかる期待や役割もますます大きくなってきている。

これまでの英語教育の成果として、外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度や、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする力を身につけさせることを目標として掲げ、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」などを統合的に育成することをねらいとして改訂され、様々な

取組を通じて指導の充実が図られてきた。(文部科学省 2017)

中学校においては、小学校における外国語活動の成果として、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成され、「聞くこと」及び「話すこと」の活動を行うことになれているといった変容が生徒に見られること等も踏まえ、授業における教師の英語使用や生徒の英語による言語活動の割合などが改善されてきている。

一方、授業では依然として、文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点が置かれ、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が十分ではないこと、

読んだことについて意見を述べ合うなど、複数の領域を統合した言語活動が十分に行われていないことなどの課題がある。また、生徒の英語力の面では、習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現することなどの課題がある。(文部科学省 2017)

このような課題を踏まえ、本校ではコミュニケーション能力における「話すこと」及び「書くこと」の育成のために、効果的なアウトプットの指導について研究を進めている。

2. 材料, および方法

2.1. Large Grammar

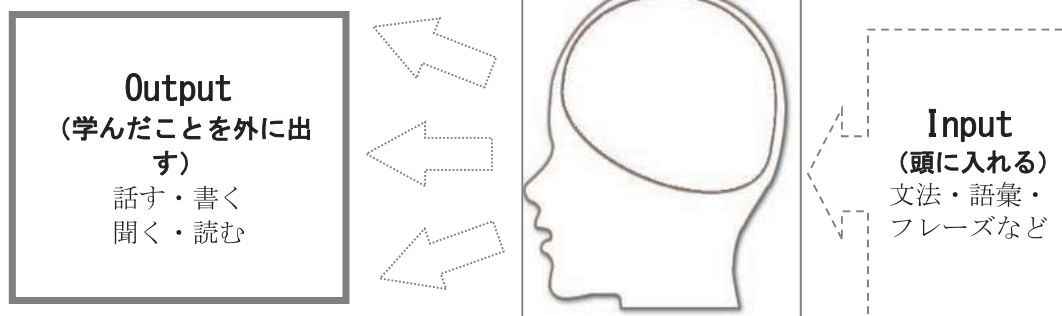
生徒が英語を用いて他国の人とコミュニケーションを図るためには、それなりの準備が必要である。つまり大量のインプットの蓄積が必要である。その蓄積があって、適切なアウトプット、すなわち他者とのコミュニケーションへと繋がっていく。

鳥取大学地域学部の足立和美教授が提唱されている Large Grammar の手法を用いたインプット活動を用いて、段階的にアウトプット活動のレベルを高めていながら生徒の表現活動を利用した取り組みを行った。(図1)

単にアウトプット活動といっても、そのテーマだけを提示して生徒に書かせるのはとても困難なことである。生徒自身多くの語彙やフレーズを習得していても、それをどう使用して表現すれば良いか分からない生徒が多い。

この活動では、英語が苦手な生徒でも大まかな意味さえ理解すれば、どの英文とどの英文がマッチングするかのイメージがつかみやすいという利点がある。

Large Grammar のイメージ (図1)



2.2. Large Grammar 活動の種類

Large Grammar を用いた活動は大きく3つに分けられている。いずれにも共通しているのは、英語を使うためのきっかけとなるチャンク(教科書で既習のものを区切ったもの)を与えること、チャンクから連想する英語を駆使し、習得した英語をリサイクルするかのよう、書いたり話したりすることに利用できるようにするトレーニングだということである。Large Grammar を用いた基本的な活動のうち3つを紹介する。

Combination 活動

意味の区切り(チャンク)に分けたものを組み合わせて新しい文をつくる。

意味の区切り(チャンク)に分けたものを組み合わせて新しい文を作る。

1. ○○○○○
2. ●●●●●
3. △△△△△
4. ▲▲▲▲▲
5. □□□□□
6. ■■■■■



$$1 + 3 = \underline{\hspace{2cm}}$$

$$5 + 2 = \underline{\hspace{2cm}}$$

Expansion 活動

意味の区切り（チャンク）に分けたものに自分のアイデアを足して新しい文をつくる。

意味の区切り（チャンク）に分けたものに自分のアイデアを足して新しい文を作る。



1 + X = _____
 X + 4 = _____
 1 + X + Y
 = _____

この活動では、チャンクに自分の知っている語彙や表現を加えて、設定時間内にできるだけたくさんの英文を書くように指示する。

Advanced Expansion 活動

教師が指示した3つのチャンクを含み、自分のアイデアを駆使して新たな物語をつくる。

教師が選んだ3つのチャンクを含み、自分のアイデアを駆使して新たな物語を作る。



_____ ○○○
 ○○ _____
 _____ ▲▲▲▲▲
 ~~~~~  
 ~~~~~  
 ■■■■■ _____
 ~~~~~

この活動では、チャンク表より3つのチャンクを指定して、それらを用いた会話文を書く活動を指示する。

### 2.3. Large Grammar 活動の指示

- ・Expansion 活動では、設定時間5分。できるだけ多くの英文を書く。英文はペアでシェアし、そのあと全体でシェアする。
- ・Advanced Expansion 活動では、設定時間6分。指示された3つのチャンクを用いながら会話文を書く。出来上がった会話文はペアでシェアし、そのあと数名の作品を全体でシェアし評価を与える。
- ・Combination 活動は今年度の授業では実践せず。(50分の授業内に組み込むことが困難なことと、チャンクを用いた応用のアウトプット活動を本時のめあてとしたため、基本の活動となるCombination活動を本研究では省いた。)

### 2.4. Large Grammar 活動の留意点

- ・チャンク表で示すチャンクの数、10語から15語程度。
- ・設定時間で書くため、辞書を引かず自分の手持ちの語彙で英文を書く。
- ・小さなミスに気にせず書く。
- ・誰がどんな場面をする会話なのか、その表現が使われる場面をイメージする。
- ・英文をシェアすることで自分にはない新たな表現を知り、次への意欲とする。

### 3. 授業でのやりくりの実践

英語科では、コミュニケーションの場面で生徒が英語を使って即興でやりとりできるように、相手を意識した話し方、あいづちを打ち、話し手に共感する聞き方、そして、聞いたことに対して、質問したり、自分の意見を伝えたりする方法などを、さまざまなテーマで投げかけ、英語を使ったやりとりの場面に授業に組んでいる。うなずきやアイコンタクト、小さなあいづちの一つひとつが、コミュニケーションを円滑にする大切な作法であることを意識させている。

今年度は、実際に外国の生徒との交流の機会がある今年度の国際交を最大限に生かして、生徒が日々の授業や学習で身に付けたことを実際の場面で使えるようなインプット活動のやりくりを考えた。

授業では、「自分の気持ちを伝える、相手の思いを感じる」ことのできる活動場면을生徒たちに与え、英語を使って即興でやりとりする活動をいくつか設定した。

#### 3.1. 授業で行った Large Grammar 活動

##### ～つなげる活動から会話を広げる活動へ

今年度の授業では、Large Grammar のいくつかの活動のうち、Expansion 活動と Advanced Expansion 活動の二種類を行った。二つの活動とも、チャンク表(図2)にあるチャンクを英文づくりの基本として、その英文をさらに広げて会話を作ることを目標とした。教科書の本文の英文を理解した後、その中の語彙や表現を発音したり書いたりして使えるように訓練を行う。公開授業では、LG 活動の Expansion 活動を、スピーキングとライティングで行い、Advanced Expansion 活動のライティングを行った。チャンクに自分の知っている語彙や表現を組み合わせて英文を作っていくことで、段階的に負荷をかけながら学習者の表現力を高めていくことができる。Advanced Expansion 活動では、チャンクを3つ指定し、それらを用いて関連性のある物語を作った。

(ワークシート)

図2

チャンク表リスト Date:.....(.....)

## Expansion Activity

英文を引き伸ばす活動

Class No. Name:

**チャンク**を使って英文を考えよう！

チャンクとは、「意味のあるかたまりで区切ったもの」のことをさします。

まず、学習した表現をペアで確認しましょう。

テーマ 「動名詞・There is / There are の文」

| No. | チャンク                             | チャンク例                                |
|-----|----------------------------------|--------------------------------------|
| 25. | You can see.....                 | あなたは□□を見るができます。<br>あなたは□□に会うことができます。 |
| 26. | I like ...ing.....               | 一するのが好きです。                           |
| 27. | I enjoy ...ing.....              | 一するのを楽しみます。                          |
| 28. | There is a... / There are.....   | □□があります。(□□がいま)                      |
| 29. | ... in the sky.....              | 空に「は」...                             |
| 30. | ... in the sea.....              | 海に「は」...                             |
| 31. | ... in Japan.....                | 日本に「は」...                            |
| 32. | Tottori is famous for.....       | 鳥取は□□で有名です。                          |
| 33. | I'm going to tell you about..... | 私はあなたに□□について話そうと思います。                |

(全分欄)

自分が思ったことを「書くこと」ができるようになるためには、まず、語彙や表現を正しく理解していることが大切である。与えられた日本語→英語にするだけでは、英作文であっても自分らしい表現にはならない。その表現が、誰がどんな場面で使うのか、言語の使用場面をイメージしながら、それに適する表現を自ら選び、短時間で頭の中にある語彙で表現する。まだ、使える単語や表現も少ないが、ペアで互いに紹介しあう活動や、数名の英文を全体に紹介して評価を与える中で、自分の中にある発想に気づき、友達の英文から大いに刺激を受ける。次の英文づくりへの構想を練っている生徒もある。

他者と英文を紹介する時間は大切であり、様々な表現の仕方に気づき刺激を受けながら、次の英文づくりへの意欲を掻き立てる時間となる。

### 3.2. 授業におけるインプット活動

#### Expansion 活動

設定時間 2分 (ペアで1分ずつ)

目標：チャンクのインプット。チャンクの意味を理解し、日本語を聞いて、すぐにそのチャンクを答える。



「日本語を聞いて英語に直す」を徹底的にインプット トレーニング

### 3.3. 授業におけるアウトプット活動

#### 3.3.1. Expansion 活動

設定時間 5分

目標：チャンクに自分の知っている語いや表現を加えて、できるだけたくさん英文を書く。



#### 3.3.2. Advanced Expansion 活動

設定時間：8分

目標：創作英作文づくり。3つのチャンクに自分の知っている語彙や表現を加えて、英文を作り、それらを含んだ大まかに意味の通る会話文をつくる。

#### Large Grammar 活動 Advanced Expansion 活動



Advanced Expansion 活動では、3つのチャンクを使って会話を書くように指示を出すのが、短い時間でまとまりのある英文を書かせるために次のことを留意した。

指定されたチャンクがそれぞれどんな場面で用いられるのか(言語の使用場面)をイメージさせること。会話が誰と誰のものなのか(登場人物)を決めて書くこと。時には人以外の動物や植物の会話を考える生徒もある。生徒が一文を書きだすまでに、いろいろな思考が頭の中をめぐり、一人ひとり異なった英文が生み出される。

(生徒①が考えた英文)

図3

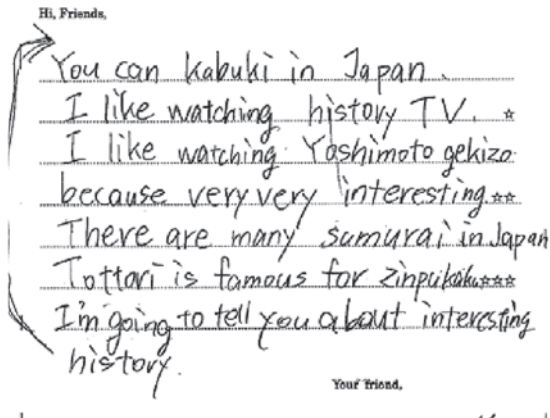
Hi, Friends,  
Hello!  
I like playing kendama. Do you know  
kendama? It is very interesting. If \*  
you come to Japan, you can play  
kendama. I live in Tottori in Japan. \*\*  
Tottori is famous for Tottori Sand  
Dune. There are many sand obje. \*\*\*  
I'm going to tell you about sand musical!  
See you.  
Your friend.



Hello! I like playing *kendama*. Do you know *kendama*? It is very interesting. If you come to Japan, you can play *kendama*. I live in Tottori in Japan. Tottori is famous for Tottori Sand Dune. There are many sand \*obje. I'm going to tell you about sand museum. See you. (50 words)

(生徒②が考えた英文)

図4



I'm going to tell you about interesting history. You can (see) kauki in Japan. I like watching Yoshimoto gekijo because (it's) very interesting. There are many samurai in japan. Tottori is famous for Zinpuakaku. (38 words)

### 3.3.3. Large Grammar 活動のシェアリング 活動時間 4分 (2分ずつ)

Expansion 活動, Advanced Expansion 活動で考えた個々の英文をペアや全体でシェアをする。この活動は、自分には考え付かない相手の発想や知っているけれど使えていない表現に気づくことができる重要な時間であり、次時への意欲を書きたてる時間でもある。

Advanced Expansion 活動の共有



ペアで互いの英文を発表してシェアリング

グループでのシェアでさらに考えを広げる



### 3.4. Large Grammar 活動の応用 つなげる活動から広げる活動へ

Large Grammar 活動を用いて、単語や熟語のインプット活動を行ったり、教科書本文の表現を基本としたチャック使った Large Grammar 活動をして、英文づくりを行ってきたりした。

Large Grammar 活動では、設定時間で英文を作る活動を紹介したが、応用の活動として「プレゼンテーション」を行った。これは生徒にテーマを与え、英文を考える時間を与えて英文を考えさせ、発表の準備をしたうえで「発表」をするというものである。

この活動では、生徒は定型(図5)となる文例を基本として、自分の知っている語彙や表現を加えて、それぞれのプレゼンテーション原稿を書いていく。

中学校の新学習指導要領の中では、新たに「話すこと」が2つに細分化され、「やり取り」と「発表」に分けられた。通常の Large Grammar 活動で、生徒は日本語→英語をペアで反復練習し、インプットできているため、それを使わせる＝アウトプットさせるための言語タスクとしてプレゼンテーション活動を試みた。

7月に行った Large Grammar 活動の ADVANCED EXPANSION 活動で生徒が書いた英文の語数(図3)(図4)と比較すると、11月のプレゼンテーション原稿で同じ生徒が書いた英文の語数(図7)は50語から80語へ増えている。これは、生徒に伝えたい内容があり、それについての語彙や表現が増えたことや、プレゼンテーションという場面に臨む準備をじっくりとしたためだと考える。言語を使えるようになるための土台づくりの練習場面(インプット)とそれを実践させるための発表の場面(アウトプット)をバランスよく与えることで学びのリサイクルが生まれる。

図5

class Number Name

My Favorite \_\_\_\_\_

Opening

Do you like ① ?.

Today I'm going to tell you about my favorite animal. .

I like ① very much. I have two ① s in my house, one is ② and the other is ③ .

They are very cute. .

Body

Some people say that ④ are ⑤ than ① . but I don't think so. I enjoy ⑤ ing with ① s. It's very interesting. .

Dog owners have to take a walk with them ⑦ times a day. But ① walk inside the house and I don't have to take a walk with them and I have more time to relax. .

Closing

① are lovely animal for me. .

Thank you for listening. .

Large Grammar 活動の応用 Presentationの定型

図6

class Number Name

☆ プレゼン発表予定 ☆

△C組 11月22日 [木]

◇D組 11月23日 [金]

発表時間 20分~1分

テーマ My Favorite \_\_\_\_\_ 私の好きな○○○

Opening

Body

Closing

☆ 発表発表予定 ☆ △C組 11月20日 [月] ◇D組 11月21日 [火]

Large Grammar 活動の応用 Presentation 清書用紙

図7

class B Number 21 Name \_\_\_\_\_

My Favorite Hobby


Do you have any hobby?

I'm going to tell you about my favorite hobby.

My hobby is visiting castles of Japan. I went to "Himeji jyo" in this summer vacation. Because I studied Himeji jyo's history to do zivakenkyu. Sunny sky and white walls were beautiful. So I was interested in Japanese castles.

We can actually look and understand many things there. I think that it is the most attractive point. My mother and I like visiting Japanese castles. I have a dream. It is to complete one hundred castles with my mother. Let's go to some Japanese castles.

Thank you. (98語)




生徒①の Presentation 原稿

class B Number 30 Name \_\_\_\_\_

My Favorite Sprinter

Hello everyone. Do you know the lightning pose? That is the lightning pose by Usain bolt. He is fastest sprinter in the World. Today, I will present about my favorite sprinter's bolt.

There are two reasons why I like him. The first one I like his thinking. It is only thinking about winning not about time. The second reasons is that he is enjoying running. I respect him very much. I want to run at olympic. And, I want be like bolt. Thank you very much. (86語)



生徒②の Presentation 原稿

#### 4. 国際交流という実践の場

本校では2014年から英国ニューステッドウッドスクールとの交流を行っている。日常の活動としては両国の生徒が授業で書き上げた英作文（英国にとっては日本語作文）を送りあったり、それぞれの言語を用いた作品を紹介し合ったりしている。また個別の生徒同士のペンパル活動なども随時行っている。2015年と2017年にはニューステッドウッドスクールの生徒が来日し、4日間程度生徒の家にホームステイをし、授業でも交流をするなどしている。

生徒にとっては、普段の授業で多くのインプット活動を行い、また Large Grammar を用いたアウトプット活動のトレーニングを繰り返していることから、この交流の場面が自らの英語力（コミュニケーション能力）を確認する絶好の機会ととらえている。また単なる語彙力だけでなく、英国の文化的背景や言語文化の理解も深まり、より英語という言語を生きた言葉ととらえ、どうすれば相手にわかりやすく伝えることができるか、またどのような表現が自分の気持ちをよりわかりやすく伝えるものなのか、といった思考のやりくりを繰り返す場面となっている。

##### 4.1. 国際交流について

英国より2017年11月21日（土）23名の生徒が来日した。鳥取での4泊5日を生徒の家でホームステイすることとなったが、両国の生徒にとって、語学習得の場であり、同時にお互いの文化を理解する良い場でもあった。24日（火）には第2学年、第3学年を中心に授業での交流を行った。

##### 4.1.2. 3年生との交流

第3学年では、事前に生徒にどのような交流をするのがよいかアンケートをとり、授業づくりから当日の司会進行まですべて生徒に任せることとした。話し合いを重ねる中で、英国の生徒にとってどのようなことに興味があるか、またどのような表現や語彙を使って活動を紹介すれば良いかなど、試行錯誤をしながらアイデアを出し合う姿が見られた。

A組では日本の文化に関するクイズを行っ

た。それぞれ英国生徒と本校生徒がグループになり、本校生徒がヒントをだしながら、より興味を持ってもらえるような関わり方をしていた。さらにペットボトルのキャップを使った簡単にゲームにも挑戦した。自分たちの身近にあるもので、遊びを考えるのは日本でも英国でも共通の文化ではあるが、この日に行ったゲームでは、英国でもやってみたくて感想を述べる生徒もいた。



C組ではいわゆる「フルーツバスケット」を行った。興味深かったことに、本校生徒は英語でテーマを出し、英国生徒は日本語でテーマを出すことがあった。それはあらかじめ決められたルールではなかったが、自然発生的にお互いの母語を用いるという、相手の国を敬う姿勢につながり、とても心温まるものであった。ゲームのテーマでは「納豆が好きな生徒」や「英国の食事がおいしいと感じる生徒」といったそれぞれの文化的特徴を捉えたものもあり、その点でも非常に興味深いものであった。





3年生の活動を通して見えてきたものは、言葉は単にコミュニケーションのツールではなく、そこに人柄や感情を込めることで、言葉が本来持っている意味以上の気持ちや思いが相手に届くということであり、それが語学を学ぶおもしろさであることに気づきつつある生徒が増えてきている事であった。アウトプット活動の醍醐味はまさに「伝える」と「伝わった」が双方向に結ばれるときであり、その瞬間がこの交際交流で多く積み重なったようである。

#### 4.1.3. 2年生との交流

第2学年では、「日本の文化を紹介しよう」というテーマで班ごとに何を紹介して一緒に交流するかを考えた。折り紙、あやとり、けん玉など伝統的な日本の遊びやかるたや将棋、福笑いなど日本人にとってはなじみのものを、外国の生徒にどのように伝えたらいいのかを試行錯誤していた。

当日はインタビュービンゴのあと、それぞれが用意した日本の遊びをイギリスの生徒たちと楽しんだ。ジェスチャーや知っている単語をやりくりしながら一生懸命に伝えようとする日本の生徒や、日本文化をたくさん知って帰ろうとするイギリス人の生徒たちの温かい交流の時間となった。

##### 国際交流での「やりくり」の実践インタビュービンゴ



知っている表現を使って「やりくり」



日本文化紹介 けん玉に挑戦



折り紙はイギリスの生徒に大人気

#### 4.1.4. 他教科との連携

国際交流では、他教科の授業でも交流を行った。保健体育で男子が組体操を披露し、女子がソーラン節を披露して一緒に踊るというものがある。保健体育の教員が両国の生徒へ向けた日本語と英語の指示を「やりくり」する。生徒だけでなく、教師側のやりくりが生まれた交流となった。

##### 国際交流「保健体育」ソーラン節



教師は日本語、英語を使って指示



上手にできればしっかりほめる“Very Good”

今年度の国際交流では、英語科だけでなく保健体育、学級活動、書写など多くの教科担当の教員が関わった。国際交流というと英語科が担う部分が多いが、今回の交流のように他教科の教師が協力的であることで、学校全体で関わることのできる交流となり、長く続くものになると考える。今後も他教科を巻き込んだ国際交流を行っていきたい。

#### 4.1.5. 小中連携、大学との連携

鳥取大学住川英明教授の指導のもと、習字のワークショップを行った。文字の書体をそのときの気持ちや雰囲気では表現するというのは習字のおもしろさであるが、それを本校生徒が身振り手振りを交えながら伝えようとする姿が見られた。日本の生徒にとっても、使ったことのない大きな筆を用いて大学の教授から専門的な指導を受ける機会となり、また外国の生徒にとっても書道という日本文化に触れるまたとない機会となった。



また、国際交流プログラムには、小中連携の一環として小学校5年生を対象に交流授業を計画していた。台風の影響により、交流授業は実施できなかったが、中学生が英語をやりくりして外国の生徒と関わる姿を小学生に示し、今後の目標とさせるとともに、小学生自身が英語を使って外国人と交流することの楽しさや重要性を感じてもらえたらと考えていた。

国際交流は2年に一度行っている。今後も中学校だけの国際交流にせず、附属学校部を巻き込んだ交流をしていくことで、そこに関わる多くの人にとって、実りのある交流となるよう継続したい。



#### 4.2. 生徒の振り返り～国際交流を通して～

言葉はとても大切で、やりとりは難しいけど楽しいと思った。5日間も他国の人と過ごすのは初めてだったので不安だったけど、それ以上に楽しかった。今度は自分が外国に行って、他国のことを知りたいし他国の人と関わりたいと思った。機会があれば、もう一度ホストファミリーになりたいです。

間違っただとしても、自分の意思を何とか伝えようという気持ちが必要だと思ったので、外国人の人とまた出会うことがあれば話してみようと思います。

イギリスの方が、こんなカタコトの英語でもわかって、やさしく接してくれたので自信になりました。私は将来、アメリカに行く予定です。消極的にならず、この自信を活かして生活していきたいです！！（原文のまま）

## 5. 今後の課題

生徒一人ひとりにとって英語を学ぶ意味はさまざまである。英語科では授業で扱う題材や異文化との交流の中でのさまざまな出会いを大切にしながら、生徒に英語を学ぶ意味を問いかけてきた。

授業では、Large Grammar 活動を用いたペアでのインプット活動やアウトプット活動を行った。即興でのやりとりや、少し時間をかけて書く活動から発表という活動の両面を鍛えることができるという点で、この Large Grammar の手法は優れている。手持ちの語彙をやりくりして「即興で話すこと」やじっくり考えをまとめて「発表すること」が「やり取り」の両輪となる。インプットとアウトプットのバランスを考えながら、統合的に使える英語力の

育成を図る必要がある。国際交流の場面があることを強みに、英語を使ってやり取りをする目的を持たせながら日々の学習に取り組みさせることが今後の課題となる。

今年度も鳥取大学の足立和美先生に多大なご助言と示唆をいただきながら生徒の英語学習の示唆をいただいた。深くお礼と感謝を申し上げたい。

### 【参考文献】

- 足立和美 (2016) 『地域教育学研究 8 巻 1 号』  
鳥取大学地域教育学科  
足立和美 (2014) 『地域教育学研究 6 巻 1 号』  
鳥取大学地域教育学科  
投野由紀夫 (2017) 『英語教育』 大修館書店

## (公開授業 2)

## 第 2 学年 D 組 英語科学習指導案

授業者 竹川 由紀子

2 年 D 組教室

## 1 題材名 Enjoy Sushi (New Crown English Series 2, Lesson 4)

## 2 教科・題材における「やりくりのたとえば」

英語を学習する上での喜びは、英語を理解するだけではなく、自分の伝える英語が相手に伝わり、他者とコミュニケーションできることである。だが、その基本となる語彙や表現を理解すること（インプット）はできても、伝えたいこと（アウトプット）がうまくできないと感じる生徒は多く、特に会話など即興性が求められるやりとりは難しいと感じる生徒も多い。

本時の導入部分で、生徒は「会話を広げる」ために、相手の言ったことを受容し、どんな言葉かけたらいいかを考えながら英語を発信しなければならない。1 問 1 答だけを繰り返す会話には、広がり生まれにくい。会話では、つなぎ言葉 (well, let's see.) や相手の発言を受け止めるためのあいづち表現 (I see. Me too. など) を何度も使いながら毎時間、試行錯誤を繰り返す。

展開部分の「英文レターを書く」活動では、鳥取大学地域学部の足立和美先生が提唱されている Large Grammar を利用した活動を仕組んでいる。この活動では、既習の語彙や表現（本時ではチャンク = 英文を意味のかたまりで区切ったもの）に自分の知っている語彙や表現を組み合わせることで新しい英文づくりに挑む。チャンクを組み合わせることから段階的にレベルを上げて、英語で自分を伝えることを楽しみながら英文をふくらませていけること、また、時間を区切って活動させることで即興性が身につくことなどがこの手法の利点である。さらには、具体的に、誰にあてたどんな英文を書くのかを指示して、どんな表現が適当かを選びながら書くことにも大いに意味がある。

本時の活動の目標は、『3つのチャンクを用いて、英語で手紙を書くこと』である。本校は今秋、国際交流の一環として英国より 25 名の生徒との交流の機会を持つ。生徒は、英国の中学生に向けて、どのように手紙を書くのか？インプット活動で用いたチャンク表より、教師が指定する「3つのチャンク」を必ず手紙の中に入れるとルールを与えて、生徒たちは手紙を書いていく。学習したことを「使える」または「使えない」という実感を通して、生徒たちは基本となる語彙や表現を理解すること（インプット）と、その使い方が分かること（アウトプット）の両方が必要であることに気づく。本時での活動が、今秋に予定されている英国ニューステッドウッドスクール (Newstead Wood School) の生徒との会話の場面で、会話を広げる活動へ繋がり、今後のさらなるやりくりが望まれることを期待したい。

## (1) 教師と教材

本単元では、すしの作り方を英語で紹介する長文を読む。他者に英語で説明する際、どのような表現をどのような順序で説明するか、しっかり考えなくてはならない。単なる英文読解で終わることなく、手順を説明する表現や相手にわかりやすく伝えるための工夫にも気づかせながら、読み込ませたい。また、単元末には会話を広げるトレーニングについての紹介もある。帯学習として毎時の導入に会話を広げる活動をしくみ、試行錯誤を繰り返して、その場に応じた表現や適切な語彙を用いた会

話が広げられようにトレーニングを行いたい。発信することと同様に、受信することの重要性に気づかせながら、相手が話した内容を聞き直すことで確認したり、つなぎ言葉やあいづちを用いたりすることで、コミュニケーションを広げようとする態度を育成することを目的としたい。また自己表現活動は、生徒によっては困難を感じたり、苦手意識を持ったりしていることもある。Large Grammar 活動を活用しながら、生徒が間違いを恐れず表現しようとする環境を整えていきたい。

## (2) 子どもと教師

本学年の生徒は、英語を使ってやりとりをすることが大好きである。昨年度は、外国人留学生との交流場面で英語を使ったやりとりを積極的に楽しんだ生徒も多くあった。継続的に交流をしている生徒は少ない。今年度、本校は英国 Newstead Wood School との交流を秋に予定している。25名の英国人中学生が来校し、本校で3日間ほどの交流を行う絶好の機会が予定されているのである。直接の交流ほど、素晴らしい体験はない。指導にあたっては、10月末の交流を意識させながら、「会話を広げる」ためのトレーニング、英文を通して自分のことを伝えるためのトレーニングを行ってきた。英語を使う場面を、意識させることで、誰に対してどんな表現を使えばいいのかを生徒は自然を考えて活動に取り組むようになる。そして、実際のやりとりを通して、自分のことを精一杯伝えながら、「英語っておもしろい」「英語ができれば自分の考えを世界の人に発信できる」と感じる生徒も増える。そんな生徒の姿を期待しながら、授業づくりに取り組んでいる。

## (3) 子どもと教材

本単元は、日本の食文化について関心を高める内容で構成されている。オーストラリア人留学生であるエマの叔母が日本にやってくることになり、日本人であるクミと一緒に日本の飾り巻き寿司を作ろうとする場面である。日本の食文化について英語で表現する方法を学ぶことは、生徒にとっても大変興味深いものである。

また文法面では、There is/are ～. を用いた表現や動名詞について学習する。特に動名詞については、自分の好きなことをより具体的に表現することが可能となる。様々な例文や実際に動名詞を用いた表現を多く活動に取り入れることで、定着を図っていききたい。

指導にあたっては、Large Grammar の手法を用いて、既習の英文をチャンクでインプットしながら、それをふくらませて自己表現へとつなげていきたい。

## 3 単元目標

- There is/are～. の表現を用いて、あるものが存在することやその場所を示すことができる。
- 動名詞の働きについて理解し、正しく用いて自己表現ができる。
- 寿司の作り方の長文を通して、説明文で使用されている英語表現を理解することができる。
- 相手に言ったことを確認したりして、会話を広げることができる。
- チャンクや既習の語彙を利用して、新しい英文を作ることができる。

○ 日本の食文化について関心を高めることができる。

#### 4 学習計画（全 9 時間）

|                                              |                |
|----------------------------------------------|----------------|
| 第 1 時 There is [are] ～. の肯定文・疑問文・否定文の理解と表現活動 | … 1 時間         |
| 第 2 時 There is [are] ～. を含む文の理解              | … 1 時間         |
| 第 3 時 動名詞を含む文の理解と表現活動                        | … 1 時間         |
| 第 4 時 動名詞を含む文の理解                             | … 1 時間         |
| 第 5 時 すしについての説明文 USE-Read の内容理解              | … 2 時間         |
| 第 6 時 学習した英語を利用し, 表現活動に生かすトレーニング             | … 2 時間（本時 2/2） |
| 第 7 時 イギリスの中学校への手紙を書く表現活動                    | … 1 時間         |

#### 5 本時の学習

##### (1) 本時の目標

- ・相手の言ったことを確認する表現やつなぎことば, あいづちなどをやりくりしながら会話を広げることができる。(表現の能力)
- ・与えられた語彙やチャンクに自分の知っている語や表現を付け加え, 英文をふくらませて話したり書いたりすることができる。(表現の能力)

##### (2) 期待される生徒の様相

###### (会話を広げる活動)

- A) 相手とのアイコンタクトを取り, ジェスチャーや表情豊かに会話を行うことができる。相手の言ったことを確認する表現やつなぎことば, あいづちなどをやりくりしながら会話を広げることができる。
- B) 相手とのアイコンタクトを取り, ジェスチャーを使って会話を行うことができる。相手の言ったことを確認する表現やつなぎことばを使って会話を広げることができる。
- C) 相手とのアイコンタクトを取り, 会話を行うことができる。相手の言ったことを理解し適切に答えることができる。

###### (手紙を書く活動)

- A) 与えられたチャンクを利用して, 自分の意見を加えてより良い英文を書くことができる。指定された3つのチャンクを用いて, 英文を作り, それらを含んだ意味の通る英文を作ることができる。また, 細かい文法にも注意しながら, 伝えたいことを書くことができる。
- B) 与えられたチャンクを利用して, 意味の通る英文を書くことができる。指定された3つのチャンクを用いて, 英文を作り, それらを含んだ意味の通る英文を作ることができる。
- C) 与えられたチャンクを組み合わせて, 英文を書くことができる。指定された3つのチャンクのうち, 1つまたは2つを使って英文を作りそれらを含んだ英文を作ることができる。

---

(3) 本時における「やりくり」

- ・ペアで会話を広げる活動では、相手の応答を聞いてあいづちや新たな質問をしたりするなど、どのようにすれば会話を広げるのか、生徒が行うさまざまな「やりくり」に期待したい。
- ・手紙を書くという活動では、英国の中学生に向けて、自分や自分の街のことについて英語で英文を書いていく。インプット活動で用いたチャンク表より、教師が指定する「3つのチャンク」を必ず用いて表現するというルールの中で、生徒たちは、どのように伝えたら相手に気持ちを届けられるのか「やりくり」しながら手紙を書いていく。

(4) 本時の展開 (○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個への支援 ※ 評価 )

| 学習活動                             | 教師の支援・意図                                                                                                        |
|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. あいさつ                          | ○リラックスした雰囲気です授業を始める。                                                                                            |
| 2. アウトプット活動① (ペア)<br>・ 1分間チャット   | ◇最初の質問だけを伝え、以降は相手の答えを受信して発信させる。                                                                                 |
| 与えられた質問をもとに、会話を広げる               | ※あいづちやつなぎ言葉を使いながら会話を広げることができているか？ (表現の能力)                                                                       |
|                                  | ◆あいづちやつなぎ言葉などを使って会話が途切れないように指示する。                                                                               |
| 3. インプット活動 (ペア)<br>・ チャンク表の確認    | ○チャンク表を正しく覚えているかペアで確認をさせる。                                                                                      |
| 4. アウトプット活動② (個人)<br>・ 英文を引き伸ばす  | ◇チャンクに自分の知っている語いや表現を加えてできる英文を書くように指示する。                                                                         |
|                                  | ○辞書を引いたり、間違いを気にしたりせず、多くの英文を書くことを指示する。                                                                           |
| 5. アウトプット活動③ (個人)<br>・ 英文をふくらませる | ◇3つのチャンク「I like ...ing / Tottori is famous for ... / I'm going to tell you about...」を示し、それらを含んだ英文レターを書くことを指示する。 |
| 3つのチャンクを使って<br>イギリスの中学生へ英文レターを書く | ◇英国の学校や生徒の様子を写真で示すことで、より現実感を持ち手紙を書くことができるようにする。                                                                 |
|                                  | ※チャンクに自分の知っている語いや表現を加えて英文を書くことができているか？ (表現の能力)                                                                  |
|                                  | ◆前の活動で考えた英文から内容を広げるよう指示する。                                                                                      |
| 6. 発表とシェアリング (ペア) (全体)           | ○作った英文をお互いに黙読する。交互に読み合い、お互いの文について感想を言い合い様々な表現を確認する。                                                             |
|                                  | ○何人かの生徒が、自分が作った文を発表する。<br><br>◇生徒が言った英文を繰り返し、全体にわかりやすく伝えるようにする。                                                 |



## (公開授業 1)

## 第3学年 B 組 英語科学習指導案

授業者 石田 順

3年 B 組教室

## 1. 単元名 The Story of Sadako (New Crown English Series 3, Lesson 4)

## 2. 教科・単元で提案する「やりくりのたとえば」

本学年の生徒は、中学校で本格的に英語を学習し、この3年間で実際に外国人と交流をしたり手紙でやりとりをしたりするなど、英語を用いたコミュニケーションの場面を多く持ってきた。現在彼らは英語を単に教科として学ぶだけでなく、コミュニケーションのツールであることを実感し、意欲的にインプットを行おうと授業にも積極的に取り組んでいる。

しかし、実際のアウトプット活動の場面になると、自分の英語力に自信がもてなかったり、何から書いて良いか分からないと不安になったりする生徒も多い。アウトプットそのものに躊躇するのではなく、その質に対して生徒自身がやりくりしながら取り組ませるために、教師の支援の仕方もある必要がある。

英語科では、鳥取大学地域学部の足立和美教授が提唱されている Large Grammar を利用した活動を毎時間のルーティーンとして取り組んでいる。何もない状態から英文を作り上げていくのではなく、教科書や参考となる英文を組み合わせたリ、フレーズを用いて自分らしい英文を作るトレーニングをこなしていく。第3学年では授業の導入で行っている単語テストに関連づけた取り組みにしている。単語テストで取り上げた単語から3つ選び、その単語やフレーズを使って英文を作成する。英語表現に不安を感じる生徒に対して、すこし背中を押してあげる。そうすることで、英語で表現することに抵抗が少なくなり、書く意欲にもつながってきている。書かれた作文をみても生徒1人1人の個性の出た英文が見えることもあり、非常に興味深い。

さらにそのあと取り組む1分チャットでは、テーマだけ与えて1分間相手に自分の考えを伝えるペア活動である。ここでは話し手だけの活動ととらえず、聞き手がいかに話し手の話題を広げるかということにも意識を持たせている。相づちや聞き返しなど、様々なアクションを用いることで1分間の語りをより豊かなものとなるよう意識づけている。

## (1) 教師と教材

本単元で学習する主な文法事項は「call/make A + B」「It ...to 構文」である。英語を学習する者にとって英語の語順をきちんと理解することは難しいことである。そういった状況の中で5文型を用いた英文を学ぶ本単元は、中学生にとっても重要な単元である。知識として理解するだけでなく、アウトプットの場面を多く設定し、Large Grammar を用いた手法で生徒に安心感を与えながら、負荷をかけていきたい。また本単元の最後には英文を要約する活動がある。一度学習した英文を自分の言葉でまとめたり、言い換えたりすることは、表現の能力を高めると同時に相手にわかりやすく伝えようとするコミュニケーション能力の育成にもつながると考える。

## (2) 子どもと教師

昨年度は毎時間授業の開始時に歌を歌っていた。また様々な映像やニュースを紹介することで、英語がまさに生きた言葉であり、人と人をつなぐコミュニケーションのツールであることを伝えるよう心がけてきた。またクリスマスシーズンには、姉妹校である英国 Newstead Wood School や世界の著名人に手紙やクリスマスカードを送るといった取り組みをしている。返事が返ってくると自分の英語が伝わる喜びを感じ、より一層英語力を身につけたいと努力する生徒も多くいる。改めて教師としての役割は場面ときっかけを与えることであり、そこで英語を習得する喜びを見いだせば、生徒は自ずと吸収しようとする姿勢をもつことが分かった。

## (3) 子どもと教材

地域紛争やテロなど世界中のあらゆる場所で、争いの絶えない日々が続いているこの世界で生きていく私たちにとって、原爆の恐ろしさや被爆してしまった少女の生き方について述べられている本単元を学習する意味は大きい。平和とは誰かに与えてもらうものではなく、自ら行動していかなければ維持できないものであることを自覚し、自分の言葉で平和について語ることを求めていきたい。また再び健康を取り戻せると信じ、懸命に折り鶴を作り続ける佐々木貞子さんの生き方を学び、千羽鶴の意味や平和の尊さなどを考えさせ、本単元で扱われる平和に関するフレーズなども習得させながら、自分の言葉で平和について英語で表現させていきたい。

指導にあたっては、ペアワークを基本とした形態で学習内容を深めていき、平和に関して意見交換をしたり、英語によるアウトプット活動の相互評価するような場面を多く作っていきたい。また本単元では英文の要約をねらいとするライティング活動にも取り組む。既習の英文を利用した要約活動から、最終的には様々なトピックスを自分の言葉で言い換えて相手に伝えるようなコミュニケーション活動に発展させていきたいと考えている。

## 3. 単元目標

- 教科書の本文を読み、平和について自分なりの考えをまとめ相手に伝えようとする。
- make A B を含む文を使って、相手が何をすると幸せになるのか正しく尋ねたり、相手の質問に正しく答えたりすることができる。
- it … for … to … を使って、語と語のつながりやかたちに注意して勉強していて簡単なこと、難しいこと、楽しいことなどを相手に正しく伝えることができる。
- 佐々木貞子さんの物語について、概要や平和について大切な部分を正確に読み取る。
- 英文を読んで、自分の言葉で要約したり、言い換えたりすることができる。

## 4. 学習計画 (全8時間)

- 第1時 make A B, call A B の用法の理解と表現活動 … 1時間
- 第2時 Part1 の内容理解, 広島原爆についての理解 … 1時間

- 第3時 Part2 の内容理解 … 1 時間  
第4時 Read ① 内容理解 佐々木禎子さんの一生と原爆の子の像の由来を理解する… 1 時間  
第5時 Summary Writing / Story Retelling 活動 … 1 時間  
第6時 Read ② 内容理解 平和を希求する人々の活動について学ぶ …1 時間  
第7時 Summary Writing / Story Retelling 活動 … 1 時間 (本時)  
第8時 Lesson 4 のまとめ… 1 時間

## 5. 本時の学習

### (1) 本時の目標

- ・与えられた単語やフレーズを用いて、ストーリーをつくることができる。(表現の能力)
- ・英文を理解し、自分の言葉で要約や言い換えることができる。(表現の能力)

### (2) 期待される生徒の様相

- A) 与えられた単語やフレーズに、自分の意見や考えを加えてよりよい英文を書くことができる。また、まとまった英文を理解し、自分の言葉を付け加えて要約し、相手に正しく伝えることができる。
- B) 与えられた単語やフレーズを利用して、意味の通る英文を書くことができる。また、まとまった英文を理解し、必要な情報をその英文から抜粋することで要約し、相手に伝えることができる。
- C) 与えられたタントやフレーズを組み合わせて、英文を書くことができる。またまとまった英文を理解し、その英文から必要な情報を抜粋して伝えることができる。

### (3) 本時における「やりくり」

- ・与えられた単語やフレーズで、ストーリーを作る場面では、自分の考えやアイデアを盛り込みながら英文を作らせていきたい。また他の生徒のストーリーを聞くことで自分の英文を見直し、さらによりよいものにしようと努力する姿に期待したい。
- ・英文を理解し、自分の言葉で物語を要約したり言い換えたりする場面では、いかに相手にわかりやすく要点を絞った言い換えができるかに期待したい。その際、単に英文の羅列で終始するのではなく、つなぎ言葉などを駆使し、口頭で伝えることを主眼とした取り組みとしたい。

(4) 本時の展開 (○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個への支援 ※ 評価 )

| 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 教師の支援・意図・評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. 前時までの復習</p> <p>2. アウトプット活動(個人→ペア)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単語、フレーズの確認</li> <li>・ <b>Expansion Activity</b>(個人・ペア)</li> </ul> <p>3つの単語・フレーズに自分のアイデアをつなぎ合わせて、新たな英文を作る活動</p> <p>3. アウトプット活動2(ペア)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英文の要約・言い換えの活動</li> </ul> <p>4. まとめ</p> | <p>○なるべく生徒1人1人の個性がでるような英文が考えられるよう、意図を持って語句を提示したい。</p> <p>◇まずはしっかり書かせ、その後ペア活動で表現させたい。</p> <p>◇相手の表現に対して、リアクションをしっかりと取らせるなどして、相互評価をさせたい。</p> <p>◆英文が作れない生徒は、教科書の本文を参考に促す。</p> <p>※提示された話題について英語で適切に表現することができるか(表現の能力)</p> <p>○ペアでのコミュニケーション活動とするために、音読練習を充実させたり、つなぎ言葉や相手に確認するような表現もしっかり活用させる。</p> <p>◇相手に内容をわかりやすく伝えることが目的であることを確認させたい。</p> <p>◆書かれてある英文を抜粋することが、要約や言い換えの第一歩であることを伝え、表現しようとする意欲につなげる。</p> <p>※相手の言ったことを確認する表現やつなぎことば、相づちなどをやりくりしながら内容を正しく伝えられているか。(表現の能力)</p> <p>・ペアで相手が伝えようとしていた内容を、元の英文で確認し、お互いが伝えた英文が正しいものだったか確認する。</p> |